

カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

ニュースレター (第5回)

CREATE 初の本邦研修、成功裏に終わる

10月18日(土)から10月31日(金)までの2週間にわたって実施された本邦研修が終了しました。今回の研修は教科書編集に関しての内容でしたので、参加者として各教科 CDT の編集担当者(12名)及びコンピューター・オペレーター(3名)を中心に構成されました。加えて、DEPT の副局長と総務課の教科書印刷担当職員が加わり、総勢18名となりました。研修直前の10月15日(水)には JICA ミャンマー事務所のスタッフによる事前オリエンテーションも開催され、参加者は、本プロジェクトも含めた日本の ODA についての説明に熱心に耳を傾ける姿が印象的でした。



事前オリエンテーション

今回の研修は、参加者にとってたいへん実り多い毎日になったという風のたよりが、ミャンマーにも聞こえていました。本邦研修は以下のような日程で実施されました。

	午前	午後
10月18日(土)	ヤンゴン国際空港→成田	
10月19日(日)	成田到着	
10月20日(月)	オリエンテーション	研修中の注意事項等 【講義】カリキュラム開発のポイント、教科書編集プロセスについて(全体)
10月21日(火)	【実習】教科書の編集方針と構成について	【実習】サンプル原稿の再検討
編集者・執筆者対象		
10月22日(水)	【実習】サンプル原稿の検討と修正	【実習】サンプル原稿の検討と修正
10月23日(木)	【講義】DTP組版の理解	【実習】簡単なDTP組版体験
オペレーター対象		
10月22日(水)	【講義】DTP組版の基礎①	【講義】DTP組版の基礎②
10月23日(木)	【実習】DTP組版演習①	【実習】DTP組版演習②
10月24日(金)	【実習】校正作業	【講義】校正作業について、著作権、カラーユニバーサルデザインについて
10月25日(土)		休日
10月26日(日)		休日
10月27日(月)	【見学】製版・印刷及び製本	
10月28日(火)	【見学】文京区根岸小学校視察	
10月29日(水)	【討議】振り返り	JICA 本部表敬
10月30日(木)	【討議】帰国後の活動に関する協議	研修報告会(アンケート)
10月31日(金)	東京(成田空港)→バンコク→ヤンゴン国際空港	

カリキュラム・フレームの最終化、かなり遅れる見込み

毎回お伝えしていますように、カリキュラム・フレームの作業が遅々として進んでいないのですが、特に10月に入ってから教育省内の作業が停滞しています。教育大臣からは、「カリキュラム・フレームについては、11月下旬に Subject-Wise Committee を開催し、内容を検討してから、その結果を12月

にドナーに伝える」という回答が出されたようですが、「11月下旬の検討」は、このままカリキュラム・フレームの議論を継続してよいか否か、といったことで、仮に「OK」が出された場合でも、それからまた詳細な内容について Subject-Wise Committee の方々と詰めていくという長い作業が待っています。

これに関連して、現在、関係各所から来年（2015年）6月からのKGの新カリキュラム施行を1年遅らせた方がよいのではないかという強い意見が出されています。「準備不足」というのがその理由としてあげられています。そうなると当然、小学校1年生への導入も1年遅れることとなり、当初の2016年6月から2017年6月になってしまいます。こちらについても、引き続き、注意深く状況を見守っていきたいと思います。

小学校及び中学校の最終学年の児童生徒を対象にした全国規模の試験、実施決定！

突然の話なのですが、今年度（2014年度）から小学校及び中学校の最終学年の児童生徒を対象にした統一試験を行うことが計画されています。実は、現行カリキュラムが施行される以前（1998年以前）は全国規模の学力試験が存在していたそうですが、現行カリキュラムでは廃止され、長らく全国規模の試験というのは実施されていませんでした。教育関係者からは全国規模の学力試験をすべきだという強い意見が出されており、CESR 調査結果からもそのような学力調査の必要性が指摘されていました。そこで、教育省は来年3月卒業予定の小学5年生と中学3年生（9年生）を対象に全国学力試験を行う計画を立てたわけです。

先日10月20日（月）に教育大学（Institute of Education）の教授が中心となって Examination Working Group が正式に立ち上がったそうです。このワーキンググループには本プロジェクトの CDT メンバーも招集されており、国語、英語、算数、理科、社会（地理・歴史）から1名ずつ指名されました。教育省によれば、本ワーキンググループは、来年2月まで毎日午後で開催され、本年12月までにサンプル試験を完成、12月末にサンプル校での試行、その後1月～2月にかけてサンプル試験を改善して、2月末に試験問題完成、3月に全国一斉に実施という計画だそうです。

ただ、この実施においては大きな課題が残っています。というのは、この試験の目的と結果の活用方法が明確になっていないのです。現在、調べた限りでは以下の3つの異なった解釈が存在しています。

解釈1：この試験は資格認定試験であり、合格した者のみが小学校（あるいは中学校）教育を修了したと認められ進学できる。不合格となった者は留年することになる。また、中途退学した児童生徒も受験資格があり、合格すれば在学していなくても小学校（あるいは中学校）の修了資格を与える。

解釈2：この試験では合否は関係なく、あくまでもミャンマー全体の小学校教育と中学校教育の質と児童生徒の到達度、すなわちカリキュラムの実施状況を評価するためのものである。

解釈3：この試験では基本的に合否は関係ないが、点数が低かった児童生徒は4月～5月（学年末～新学期開始までの休業期間）に開催される補習を受け、それで認められれば進学できる。

現時点でその目的や結果の活用方法が十分に議論されず、多様な解釈のある中で、実施することだけが先に決定しているという状況に違和感をおぼえずにいられません。

以上